

笑顔輝く大津の教育

～相互補完的で還流的な学び「秋の七草」の授業より～

教育長 島崎 輝久

先日、生涯学習分野で市教委と関係が深い大学の教授・関係者の方と懇談する機会がありました。雑談も含め様々な話をする中、教授は、大学教育を取り巻く課題に対応する当該大学の改革案について、次のように説明されました。「本学では教養教育改革に取り組もうとしている。それは、18歳人口の減少による大学間の競争激化や大学入試制度の多角化などで、入学する学生の学力レベルや興味・関心が多様になってきていることに加え、2025年度には新学習指導要領で学習を終えた高校生が大学生になるため、カリキュラムの見直しが喫緊の課題との認識からである。今回の教養教育改革では、入学間もない多様な学生に教養教育の面白さを実感させ、学年の進行につれて主体的・自立的な学びへ誘う工夫を図り、学生の知的躍動を引き起こして、学生本位の学びを創造するカリキュラムの構築を目指している。」そして、評価に関係している私に意見を求められました。

教授の説明を皆さんは、どのようにお感じになりましたか？

私は、「大学教育の改革案とはいふものの、主体的・自立的な学びへの工夫など、小中学校にもあてはまる部分が多く、たいへん共感しました。とりわけ、『学生の知的躍動を引き起こす』という言葉が印象に残ります。」などとお伝えしました。

また、そのやり取りの中に、教授が最近ふと見かけて、たいへん興味をもって見入ってしまったという、『秋の七草』をテーマにした小学校の授業が話題に上りました。萩（はぎ）、薄（すすき）、葛（くず）、撫子（なでしこ）、女郎花（おみなえし）、藤袴（ふじばかま）、桔梗（ききょう）・・・皆さんは、いくつ思い出すことができましたか？また、それがどんな花かイメージできますか？私も教授同様、テーマを聞いてワクワク感を覚え、無性に授業の先が知りたくなりました。子どもたちは、「タブレットで調べてみましょう」という先生の指示で調べ始め、暫くすると調べ終わった子どもが口々に7つの草花を発言し、先生は、黒板にその名称を書き足して、少しのキャッチボールの後、次のテーマに移られたとのことでした。

「秋の七草」・・・以前と違い、今では身近な暮らしの中に見つけることは容易ではありません。藤袴や桔梗は自生できる野山が減り、絶滅の危機に瀕しているともいわれています。だからこそ、「七草のうち三種類、おうちの方と一緒に探してみましょう」などの投げかけがあったとしたら・・・授業での学びを家庭でしゃべりあったり、家族で実際に自然の中を散策したりすることで、さらに、その子ども本位の学びを深めることにつながったかもしれません。

学校現場では、楽しい授業づくりのために、ICTを活用するなど様々な工夫がなされてきていますが、授業から引き起こされた「知的躍動」が親・おとなとの関わりや実体験を通して深まっていく、また反対に、実体験から湧き起こった「知的躍動」が授業を通して確信的なものになっていく、このような相互補完的で還流的な学びが、大学のみならず、小中学校においても何より大切にすべき教育活動ではないか、本当の意味での学ぶ楽しさにつながるのではないかと私は考えています。

令和5年度 夏季実施の研修の様子をお伝えします！

今年度の夏季研修は、新型コロナウイルスが5類となって初めての開催となりました。保育園・幼稚園・小学校・中学校と各校園のみなさまに幅広く受講していただきました。「学び続ける教職員」でありたいというそれぞれの願いで、全29講座を開催し、のべ1723名の積極的なご参加をいただきました。一部を紹介します。

教師の心と技を磨く研修 全体研修会

講師：中山 芳一

8月17日
生涯学習
センター
ホール

岡山大学 准教授

テーマ『生徒指導の機能を生かした授業づくり
Part2～非認知能力の育成を通して～』
(同時双方向型オンライン研修)

非認知能力とはどんなものなのかというところから、教育現場で活用できる3つの非認知能力グループについてや教育現場でチームとしてできる教育実践ステップについて、大変丁寧にご講義いただきました。学校園の教育目標を抽象的なものにしておくのではなく、非認知能力の視点で具体化して行動目標とすることでチームとしての軸ができ、子どもを見取る専門性が高まることを教えていただきました。また、引き出したい非認知能力を考えた上で、子どもの心を動かす仕掛け(ギミック)を意図的に取り入れるなど、新たな視点から授業改善について考えることができました。



○受講者の感想

*難しい内容ではありましたが、非常にわかりやすく説明をしていただき、非認知能力について学びを深めることができました。行動への意識のベースとなる「価値観」のお話がとても印象に残り、2学期初めにもう一度クラスに自分の価値観の発信をしていこうと思いました。また、授業においても、子ども自身が自分でマインドセットして、非認知能力を評価まですることができると知り、やってみようと思いました。振り返りも積極的に活用していきたいと思いました。

教師の心と技を磨く研修 2

講師：西川 悟平

7月28日
生涯学習
センター
ホール

東京パラリンピック 閉会式ピアニスト

テーマ『最悪の出来事も最高の出来事になる！
～心の奥に届く音楽とともに～』

ご自身の実体験について話され、人との出会いの大切さや教師の一言が子どもに与える影響の大きさ、「絶対に無理はない」ということを教えていただきました。「どんな逆境であっても、自分の夢にリミットをかけない」などのたくさんのメッセージと、実際に夢が叶うことを体現している素晴らしいピアノ演奏。どちらも心に響き、研修タイトルどおり、「心と技を磨く」ことができました。



○受講者の感想

*子どもの可能性を広げるのも閉ざすのも教師の言葉次第で、教師の一言は子どもの人生を大きく変えるのだと強く感じました。初めから無理と決めつけるのではなく、努力し続けること、口に出し続けること、イメージを持ち続けることで叶うものがあるのだと思いました。あっという間の素敵な時間となりました！

若手教員の生徒指導力向上研修 1

講師：阪中 順子

奈良女子大学 大学院 非常勤講師

8月18日
生涯学習センターホール

テーマ『いのちを守る自殺予防教育～今、求められる学校と教職員の役割～』

教職6年次までの若手教員を対象に、子どもを取りまく深刻な状況や危機対応、自殺予防教育について、データや事例をもとにご講義いただきました。命の危機にある子どもたちにどのように関わり、そして寄り添い、思いを受け止めるのかということや学校、教職員の役割について教えていただきました。

○受講者の感想

*自殺の原因として学業不振や人間関係が要因として大きかったので、教師として一番にできることはわかる授業をすることだと感じました。子どもの実態に合わせて、どの子にもわかる授業を考え、工夫し、実践したいと思います。子どもたちからの相談だけでなく、普段の何気ないことも受け止め、理解しようとする姿勢でよい聞き手になろうと思います。



特別支援教育研修 全体研修会

講師：楠 凡之

北九州市立大学 教授

7月26日
生涯学習
センター
ホール

テーマ『学童期の発達障害の子どもの発達支援と 学級づくり』

※大津市子ども発達相談センター・
大津市教育支援センターと共催

自閉症スペクトラムの特性やインクルーシブ教育の実践、インクルーシブな子ども集団づくりについて、実践報告や大学生の感想レポートを基に具体的に説明してくださいました。発達障害の子どもの行動の裏には何があるのかを共感的に読み取って言語化していくとともに、他の子どもにも理解できるように援助していくことで、お互いの思いが尊重される学級づくりにつながっていくことを教えていただきました。

○受講者の感想

※事例の中に、自分の学級で当てはまる子がおり、「自分はその子の気持ちを受け止め、理解し、ケアできていたか」や「気持ちを代弁できていたか」と少しドキリとする内容でした。自分のことに必死で子どもの気持ちをゆっくりと受け止めることができていないこともあり、それでうまくいってなかったのかと納得できる部分もありました。2学期から、背景にあることを聞いたり考えたりしながら、安心して受け止められる環境づくりをしていきたいです。

特別支援教育研修 3

講師：久保山 茂樹

国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター
上席総括研究員(兼)センター長

8月18日
生涯学習
センター
ホール

テーマ『多様な学びの場における 具体的な支援と指導について』

～「共生社会の担い手を育む」を保育・教育の合言葉に～

これからの保育・教育が目指す方向性から、インクルーシブ教育や共生社会の担い手を育むための保育者・教師の多様な価値観までお話いただきました。

豊富な研究事例とともに、子どもの姿を肯定的に捉えること、少数派の子どもの視点で保育・教育を見直すことなどについて、ご講義いただきました。

○受講者の感想

※「今もっている力で懸命に生きている子どもたち」というまなざしを今後もしっかりもちたいと思いました。また、「子どもたちから学ぶ」という志と、多様な価値観を教師として広げていきたいです。この研修の学びを人材育成や園づくりにも生かそうと思いました。

※少数派の子どもが頑張らないといけないう状況ではなく、お互いに歩み寄り、互いに尊重し合う保育を目指していきたいと思いました。

初任者研修（幼・小・中）

講師：オーパル職員

オーパルオプテックス株式会社

8月1日
オーパル
(雄琴)

テーマ「地域に学ぶ」

幼稚園・小学校・中学校の初任者が、雄琴学区にある「オーパル」（オーパルオプテックス株式会社）で、琵琶湖体験活動を行いました。午前は幼・小・中の合同チームでドラゴンボートの体験を、午後はそれぞれの校種で琵琶湖体験学習の指導案の検討を行いました。琵琶湖という素晴らしい教材から、実体験をもとに安全指導や環境学習、特別活動など様々な視点での学びについて考えることができました。

○受講者の感想

※ボートを速く進めるためにはどうすればよいか、声かけはどんなものがよいかなど、様々な場面で自ら考える力を養う部分がありました。実習を通して学んだことを、クラスマネジメントにも生かしていきたいです。



初任者研修（小・中）

講師：滋賀大学教育学部

附属小・中学校教員

8月3日
8月4日
附属小・中

テーマ「授業づくり」

〈小学校 8月3日 於 附属小〉

小学校初任者・臨時講師を対象に、滋賀大学教育学部附属小学校で算数科の授業づくりについての研修を行いました。低中高学年に分かれて3人の附属小学校の先生方からご講義をいただき、発達段階に応じた学習指導について学ぶことができました。また、授業実践例や自作の教具も見せていただき、今後の授業改善について考えることができました。

〈中学校 8月4日 於 附属中〉

中学校初任者・2年次・3年次・臨時講師を対象に、附属中学校で各教科別の研修を行いました。各自が持ち寄った実践事例を交流した後、附属中学校の先生方から「主体的・対話的で深い学び」の実現や「ICTの効果的な活用」についての指導助言をいただきました。



ミドルリーダー研修 1・2

第1回 「ミドルリーダーに期待すること ～その役割と活動～」

講師：高木 悟

学校支援アドバイザー

第2回 「ミドルリーダーによるカリキュラム・マネジメント」

講師：今井 弘樹

滋賀大学教職大学院 教授

テーマ「教育活動の推進役としての自覚をもつとともに、学校改善に向けた実践力の向上」

※今年度の受講生は、小学校8名、中学校4名、計12名。

本研修は、1年間を通しての個人研究や、ステージ研修での研修講師としての取組など、校内外のみならず大津市全体におけるリーダーシップの向上を目指しています。

★学級づくりや授業づくりが研修の中心となる2学期の初任者研修において、教育センターや市内小・中学校を会場に、ミドルリーダー研修受講生による講義や授業公開を実施します。

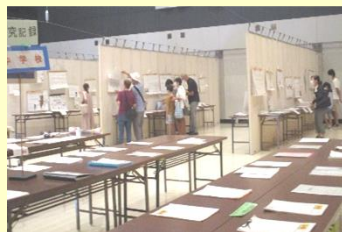
★9月の初任者研修では、ミドルリーダーが「2学期からの学級経営」について講義を務め、初任者が学級経営について振り返り、見直す機会としました。



第74回

大津市児童生徒科学作品展並びに 発明工夫作品展を開催しました。

9月9日(土)～10日(日)に大津市生涯学習センターにおいて、「第74回大津市児童生徒科学作品展並びに発明工夫作品展」を開催しました。市内小・中学校からは科学作品170点、発明工夫作品12点が出品されました。子どもたちが一生懸命取り組んだ作品はどれも力作ぞろい、会場に訪れた人たちは、一つ一つの作品を丁寧に見ておられました。この作品展が、子どもたちの科学的な探究心の高まりにつながればと願っています。



若手教員育成学校園訪問

ご活用ください！

経験年数が2～5年次の先生方を対象に、幼稚園、小学校、中学校からの要請に応じて学校園訪問を実施しています。この事業は、より確かな保育・授業づくり、学級づくりを目指し、市内の若手教員の教師力向上のために実施しているものです。前期は幼稚園4人(4園)、小学校17人(9校)、中学校29人(9校)の先生方について訪問しました。保育や授業を参観する中で指導内容や指導方法について助言及び相談を行い、若い先生方を支援しています。学校園訪問の要請は年間を通して受け付けています。また複数回の訪問要請にも応じています。

ぜひ、後期もご活用ください。

大津のキラリ☆みつけた

【共に切磋琢磨し、高め合う】

学校を訪問し、若手の先生方の研究授業を参観していただくことがあります。

それは、研究授業の参観者が管理職の先生や授業者と同じ学年に所属する先生だけでなく、学年の異なる先生方も参観される学校が増えてきているということです。

ある小学校では、OJT研修としてOJTグループで事前に指導案を検討し、発問や板書などを一緒に考え、授業づくりに取り組み、当日の授業を参観する、そして、事後研究会を開催し、授業を振り返り意見交換をしているそうです。事前検討会から研究授業、事後研究会までの一貫した研修を通して、若手教員の研究授業は、OJTグループメンバーの教員にとって「他人ごと」ではなく「自分ごと」となり、授業の力を伸ばす切磋琢磨の場となっているのです。

「子どもは、授業で必ず変わる。」

授業が変われば学級、学校全体も変わる。」

共に学び合う教師集団の中で個々の教員の力量が高まり、子どもがよりよく変容していくものと感じています。

STEP2【子どもの学びと人間関係を深めよう】

- ゴールをイメージした学習過程を大切にしよう
- 授業の中でこそ、個の人間性と集団力を育てよう
を実践するために…

OIE-NET 教職員向け WEB ページが変わりました！

OIE-NET 教職員向け WEB ページのトップページを、これまでの一覧形式から右図の様に変更しました。

多くのボタンが並んでいて、初めての方が目的のページを探すのに時間がかかる形式だったため、トップページの「校務関連」「研修関連」「教材データ・実践事例」「わたしたちの大津」「リンク集」の各ボタンから項目を絞り込んだページにジャンプできるようになりました。

また市立各小中学校のホームページには、ページ最上段の琵琶湖の画像からジャンプできるようになっています。ご活用ください。



貸出図書の活用

教育センターでは授業づくりや、園児・児童生徒支援に役立つ図書を貸し出しています。

※詳細は教育センター《Tel077-522-1910》まで。

教師のための

「非認知能力」の育て方



中山 芳一 著

明治図書(2023年)

非認知能力を育成するための5つのステップ

認知能力と非認知能力の関係性、それぞれの特性や構造などについて図表も用いてわかりやすく解説されています。

また、具体的な行動指標の必要性、フィードバックによる意識付け、ギミック(仕掛け)を用いる教師の工夫など、ステップアップしながら読み進めることができます。小中学校の実践例も記載されています。

保育・教育現場で実際に子どもたちと毎日関わっている先生方が大切にされている「目に見えない子どもの育ち」や、それらを伸ばすための考え方が言葉になって記載され、この本で再確認できることと思います。